

中学校 音楽科

1. 音楽科における学習評価の基本的な考え方

音楽科では、学習指導要領に示された資質・能力を、表現及び鑑賞の活動を通して育成していくことが大切です。この資質・能力は、学習指導要領の内容に示されているので、そのまま題材の目標として設定することが可能です。この内容と、生徒の実態等を踏まえ、評価規準を作成し、目標の実現に向けた生徒の学習の状況を評価します。また、資質・能力の3つの柱のうちの一つ「学びに向かう力、人間性等」は、年間を通して目標の実現に向けた粘り強さや自らの学習の調整をしようとする姿を評価します。

2. 中学校音楽科の学習評価に関する事例

中学校音楽科の「内容のまとめり」は、「A 表現」(1)歌唱の活動、(2)器楽の活動、(3)創作の活動と、「B 鑑賞」の(1)鑑賞の活動に分けられています（全てに〔共通事項〕が含まれます）。この内容のまとめりを踏まえた学習評価の事例を、第 2 学年の題材で説明します。

例 第 2 学年 題材名 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう

内容のまとめり：〔第 2 学年及び第 3 学年〕「A 表現」歌唱の活動及び〔共通事項〕



(1) 題材の目標の設定

内容には示されていないので、該当学年の目標(3)を参考にする。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 |
|---|--|---|
| 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造（※ 1）や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 | 「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 | 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。 |

題材の目標と、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を参考に、前の題材までの学習内容を踏まえ、題材の評価規準を設定する。文末は「～している」等にする。

学年別の評価の観点の趣旨の「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

(3) 題材の評価規準の設定

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| <p>知 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造（※ 1）や歌詞の内容との関わりを理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> | <p>思 「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> | <p>態 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

「知識」と「技能」はそれぞれ分けて評価規準を設定する。

「○○を知覚し」の「○○」の部分は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な要素を選択して置き換える。

「○○に関心をもち」の「○○」の部分は、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整したりするために必要な事柄を記載する。

◎「音楽の構造（※ 1）」については、「思考・判断・表現」の評価規準の中で選択した音楽を形づくっている要素（ここではリズム、速度、旋律、強弱）との関わりの中で捉えていくことのできるものとして考えておくことが大切です。



(3)題材の指導と評価の計画(全4時間)

| 時 | ◆ねらい ○学習内容 ◎題材全体の学習指導における評価の位置付け | 知・技 | 思 | 態 |
|---|---|------------------------|-------------------|-------------------|
| | | 〈 〉内は評価方法 | | |
| 1 | ◆「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ○「荒城の月」、「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ○「荒城の月」、「早春賦」の音楽の特徴の相違点などに気付く。 | | | |
| 2 | ◆「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。 ○「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じする。 ○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。 ○前時の学習を想起して「早春賦」を歌う。 | | | |
| 3 | ◆「荒城の月」と対比しながら、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方、フレーズ）、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。 ○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 ○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながりやフレーズ）、強弱を知覚・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。 | 知 〈ワークシート Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ〉 | 〈観察〉 〈ワークシートⅢ〉 | |
| 4 | ◆創意工夫を生かして「早春賦」を歌う。 ○創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。 ○思いや意図をもって「早春賦」を歌う。 ○題材における学習を振り返る。 | 技〈演奏(歌唱)〉 | | 〈観察〉 〈ワークシートⅣ〉 |

◎「思考・判断・表現」の評価を第3時に位置付け、第2時から第3時までの、音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価する。

◎「知識」の習得に関する評価を第3時に位置付け、曲想と音楽の構造等との関わりについての理解の状況を評価する。
「技能」の習得に関する評価を第4時に位置付け、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能の習得の状況を評価する。

◎「主体的に学習に取り組む態度」の評価は第4時に位置付け、第1時から第4時までの、題材の学習活動への取り組みの状況について総括的に評価する。

〈ワークシートⅠ～Ⅳは、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』の60頁を参照)

☆「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

（生徒の記入例）

| | |
|-------|---|
| 知識・技能 | ☆「早春賦」の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを理解し、言葉で表している。 |
|-------|---|

・春を待っている様子が感じられる
・流れるようだ
・リズムが生き生きしている
・旋律が上がったり下がったりして、休符がない
・少しゆっくりになったり、強弱が突然変わったりする

| | |
|---------------|---|
| 主体的に学習に取り組む態度 | ☆学習の全体を振り返って、自分が学んだことについて、授業での学習内容を踏まえて書いている。 |
|---------------|---|

・歌詞の内容を想像しながら、作曲者が書いた記号に気をつけながら、その曲に合った速度やフレーズ、強弱を工夫して歌うと、歌詞や音楽を作った人の気持ちと同じ気持ちになって歌うことができると思いました。